

本日の学び:「エレミヤの傷と痛み」 テキスト:エレミヤ10章17-24節

【理解の手がかりとして】

本課のテキストは、いよいよユダの民が戦争捕虜とされていく局面である。包囲されているのはエルサレムの都のこと。「女」(10:17)とは、エルサレム(エルサレムは女性形で表される)を指している。その都が占領され、捕虜となり、その地を去るために「荷物を集めよ」(10:17)とのエレミヤからの呼びかけである。

続けてエレミヤは神の言葉を持ち出す。——「見よ、今度こそ、わたしはこの地の住民を投げ出す。わたしは彼らを苦しめる。彼らが思い知るように」(10:18)——これまで、完全なる破局を免れていたエルサレム(列王記下14:14、16:5、19:35-36など)が、今度ばかりは免れ得ない状況が「今度こそ」という言葉で表されている。注目するは、これが他でもなく主の裁きの業である、ということ。「わたしは」(10:18)という主語は主である。

19節からの「わたし」とは、ある註解では「ユダの民」(ATD)と解し、別の註解では「エレミヤ自身」(新共同訳聖書註解)と解する。結論、そのいずれも正解であろう。預言者エレミヤは、その傷を「わたしの傷」として痛み、民の悲慘を共に経験しているのである。「民族の運命を自己の運命として引き受けながら、…民族の病を自分の病として引き受けるがゆえに、民族の病と格闘し、苦悩を経験しなければならない」(新共同訳聖書註解)。

20節にある「天幕」について——天幕はイスラエルが遊牧時代に用いた可動式住居である。カナン定着後も、ある人々は引き続き天幕に住み、また石造りや木造の家屋に住むようになった後にも、「天幕」は一般の住居を指す語であった。つまり「天幕は略奪に遇い、天幕の綱はことごとく断ち切れ」(10:20)とは、住み家を破壊され追われる様相である。連れ去られる「息子ら」(同)というのは、実際の「子」を指しているかもしれないが、このところの主語が「わたし(ユダの民)」として捉える場合、それは「息子ら(ユダの民ら)」という意味と解する。私はその理解を取るが、前者の解釈を排除するものではない。

21節には「群れを養う者」、つまり指導者の愚かさが指摘される。ここにある羊飼いと群れの比喩「彼らにはよく見守ることをせず、群れはことごとく散らされる」とは、ヨハネ福音書の「良い羊飼い」(ヨハネ10:7-18)とは対照的である。——「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる」(ヨハネ10:11-12)。旧約聖書に見るメシア(救い主)待望とは、この「良い(まことの)羊飼い」への待ち望みではなかったか、とこのエレミヤ書を読みつくづく考えさせられる。

22節にある「北の国」とは何を指すのか。実際にユダの民が直面した外敵とはバビロニア(東の国)である。複数の註解でも、この部分は「北から切迫する戦争による破局」とか「北からの災い」としか記されていないので断言は避けるが、私はこの「北の国から大いなる地響き」(10:22)とは、先にアッシリアにおいて滅ぼされた北イスラエルの身に起きた破局を指すのではないかと考えている。「主は御言葉をヤコブに対して送り、それはイスラエルにふりかかった。…民は自分たちを打った方に立ち帰らず、万軍の主を求めようとしなかった」(イザヤ9:7、12)——北イスラエルの破局の経験を南ユダも迎るのである。北イスラエルの破局を反面教師に成し得なかった南ユダの破局、…あらためて前課のテキストを心に刻もう。「さまざまな道に立って、眺めよ。昔からの道に問いかけてみよ」(6:16)。

さて、本課テキストのクライマックスは23-24節である。ここでの「わたし」は明白にエレミヤその人であろう(しかし民の代表として「わたし」と一人称を用いているとも解せる)。ここで預言者エレミヤが口にするのは主への祈りである。23節で彼は人間の認識と行動の限界を認める。「道」とは「人生」であり、「歩み」「足取り」はその「生き方」である。やはり彼は「民」の代表として、その民の歩み(生き方)に対する内省を深くし、そしてそのおぼつかなさを告白する。

そして彼は一足飛びに、その「わたし(民)」の罪の赦しを求めるのではない。彼は「懲らしめ」「正しい裁き」を求め祈るのである。そしてその裁きは「無に帰する」(10:24)ためではなく、つまり滅ぼし尽くすのではなく、民が悔い改め立ち帰るためになされること、そのことを求めたのである。

『聖書教育』より

- 「苦しむエレミヤに向かって、後に神は約束してくださいませ。『彼らはあなたに戦いを挑むが、勝つことはできない。わたしがあなたと共にいて助け、あなたを救い出す、と主は言われる』(15:20)。このように神の愛に答えて、エレミヤもまた少しずついやしと再生への道を歩み出すことができるのです。」(聖書の学び～主を、わたしを懲らしめてください)

